

令和4（2022）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	マクロ経済学演習(Macroeconomics Exercises) 2037123-089					担当教員	石川 英樹 (イシカワ ヒデキ)		
科目区分	専門科目	必修・ 選択区分	選択	単位 数	2	配当年次	2年次	開講期	前期
科目特性	知識定着・確認型 AL / 資格対応科目								

① 授業のねらい・概要	<p>授業は、ERE ミクロマクロ（経済学検定試験）の受験に向け、マクロ経済学の知識を深めることを目的とする。ERE（経済学検定試験）は全国レベルで各自の経済学の習熟度を客観的に知ることができる検定である。さらに ERE の問題は公務員試験の経済学分野の問題と同様の内容で、本授業での学びは公務員試験対策にも寄与する。</p>
② ディプロマ・ポリシーとの関連	<p>職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力を育成する授業である。</p>
③ 授業の進め方・指示事項	<p>1年次に学習したマクロ経済学の知識の確認と、経済学検定試験（ERE ミクロ・マクロ）を中心とした問題に取り組む演習を中心に講義を進める。</p>
④ 関連科目・履修しておくべき科目	<p>「マクロ経済学」「ミクロ経済学」</p>
⑤ 評価 A に対応する具体的な学習到達目標の目安	<p>(i) 国民所得決定理論の演習問題を理解し、テキストの問題を解ける。 (ii) 消費・投資・貨幣市場の演習問題を理解し、テキストの問題を解ける。 (iii) 現実社会での経済問題について自ら判断し考察し、他者に説明できる。</p>
⑥ テキスト（教科書）	<p>西村和雄・八木尚志(2008)『経済学ベーシックゼミナール』実務教育出版</p>
⑦ 参考図書・指定図書	<p>必要に応じて授業中に随時紹介する。</p>

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S	A	B	C	D
	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 国民所得決定理論の演習問題	教科書の国民所得決定理論の演習問題を解説資料に頼らず解け、応用問題も自力で解ける	教科書の国民所得決定理論の演習問題を解説資料等に頼らず解ける	教科書の国民所得決定理論の演習問題を解説資料等を見ながら解ける	教科書の国民所得決定理論の演習問題を解説資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて解ける	教科書の国民所得決定理論の演習問題を資料等を見ても、教員等の支援を受けても解けない
(ii) 消費・投資・貨幣市場の演習問題	教科書の消費・投資・貨幣市場の演習問題を解説資料に頼らず解け、応用問題も自力で解ける	教科書の消費・投資・貨幣市場の演習問題を解説資料等に頼らず解ける	教科書の消費・投資・貨幣市場の演習問題を解説資料等を見ながら解ける	教科書の消費・投資・貨幣市場の演習問題を解説資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて解ける	教科書の消費・投資・貨幣市場の演習問題を資料等を見ても、教員等の支援を受けても解けない
(iii) 現実社会での経済問題	現実社会の経済問題を題材とした演習問題を資料等に頼らず解け、解説してない諸問題についての演習問題も自力で解ける	現実社会の経済問題を題材とした演習問題を資料等に頼らず解ける	現実社会の経済問題を題材とした演習問題を資料等を見ながら解ける	現実社会の経済問題を題材とした演習問題を資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて解ける	現実社会の経済問題を題材とした演習問題を資料等を見ても、教員等の支援を受けても解けない

⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	50%	20%				30%		100%
(i) 国民所得決定理論の演習問題	20%	10%				15%		45%
(ii) 消費・投資・貨幣市場の演習問題	20%	10%				15%		45%
(iii) 現実社会の経済問題	10%							10%
フィードバックの方法	前期末試験結果、小テスト結果は返却して解説する。							

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
時間中にマクロ経済学の最低限の振り返りをしながら、できるだけ多く演習問題に取り組めるよう工夫する。

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	オリエンテーション	1年次「マクロ経済学」全般の復習	60分
2	国民所得統計と GDP	教科書 13 章 P.225～233 の予習と練習問題の復習	60分
3	.GDP の諸概念	教科書 13 章 P.233～238 の予習と練習問題の復習	60分
4	.物価指数	教科書 13 章 P.238～242 の予習と練習問題の復習	60分
5	財市場の分析	教科書 14 章 P.243～248 の予習と練習問題の復習	60分
6	45 度線分析	教科書 14 章 P.248～252 の予習と練習問題の復習	60分
7	乗数効果～投資乗数、財政支出乗数	教科書 14 章 P.252～257 の予習と練習問題の復習	60分
8	乗数効果～租税乗数	教科書 14 章 P.257～264 の予習と練習問題の復習	60分
9	IS 曲線と LM 曲線	教科書 15 章 P.265～272 の予習と練習問題の復習	60分
10	IS－LM 分析の基本	教科書 15 章 P.273～278 の予習と練習問題の復習	60分
11	IS－LM 分析の応用	教科書 15 章 P.278～284 の予習と練習問題の復習	60分
12	IS－LM 分析と経済政策	教科書 15 章 P.284～286 の予習と練習問題の復習	45分
13	ケインズ型消費関数	教科書 16 章 P.287～291 の予習と練習問題の復習	60分
14	消費関数に関する三大仮説	教科書 16 章 P.291～299 の予習と練習問題の復習	60分
15	ふりかえり、まとめ	配布プリントの練習問題の予習・復習	60分

⑫ アクティブラーニングについて
知識定着・確認型 AL を採用する。ERE ミクロマクロ（経済学検定試験）の過去問の演習を行うとともに、関連する演習問題の解説を行う。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
平成 4（1992）年 6 月～平成 16（2004）年 3 月に（財）国民経済研究協会に在籍し、企業環境研究センター、経済産業研究部の研究員として、マクロ経済の調査分析業務および経済・産業予測等の調査レポート作成業務に従事した。
実務経験と授業科目との関連性
本授業は、マクロ経済理論の応用として、数値データを含む演習に取り組む。マクロ経済の理論の理解にとどまらず、具体的な数値を用いた演習能力の育成を目指している。現実のマクロ経済データをもとに調査分析を遂行した能力を、数値を用いた演習の指導に大いに発揮していきたい。